

ザ・テクニカル

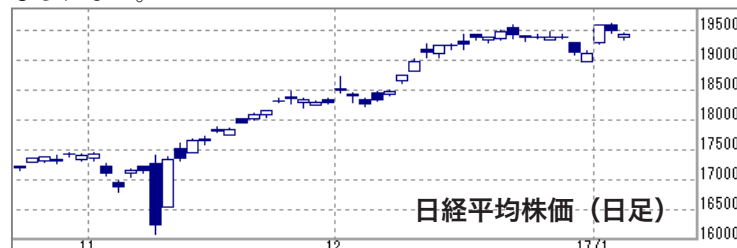
25年ぶりの高値に向けて

昨年から引き続き、1995～96年の日経平均株価のフラクタルを参考に分析してみる。昨年末の本稿では“大発会大幅続伸の期待”と題して「注目すべきは1996年の大発会は19,945円で始まり、引け値が20,618円と前年末比750円高の大幅値上がりとなった。その勢いは6月まで続き、そこで22,750円の天井を付けた。これが年末年始に発生する可能性がある。1996年大発会同様、2017年1月大発会が大幅続伸となれば、700円高も想定内」。

年末安値18,991から大発会高値19,594まで603円高と上伸。95年末からの流れを引き継いでいる。

あとは為替の援護射撃が必要だが、トランプ政権移行後、米経済を繁栄させようとするならドル安が望ましいが、米景気が好調なら金利高からドル高の動きは避けられない。トランプ政権が何処までドル安へと口先介入するか判らないが、米経済の繁栄とドル高が維持されるようであれば、NYダウが急落しない限り、日本も円安、株高が続こう。そうなれば1996年相場の如く、年央に向けて堅調な動きが想定される。但しユーロ圏

で控えている選挙がリスクオンの流れを一時的に遮断させるかもしれない。こういったビッグイベントは昨年同様、何が起るか予想困難。フラクタル分析では2017年相場が1996年相場を反映させるなら、2月1,000円幅、7～8月2,800円幅、12月～1月4,000円幅ときつい調整が3度発生する。ただ、当時と異なるのは60年サイクルの下降期と上昇期。96年の高値は現在も更新できていない。しかし60年サイクル、さらには新8年サイクルの上昇期に入っている現在、96年の高値22,750は最低限更新し、1991年以来の高値25,000円を目指すと予想する。現在は新8年サイクルの上昇期でもある。今年は早々にも、「日経平均株価25年ぶりの高値」一との見出しが新聞紙面を飾るかもしれない。



今週の指押し

ユーロドル買い転換

先週末発表された昨年12月の米雇用統計。非農業部門雇用者数（NFP）は前月比15.6万人増と市場予想の17.5万人を下回ったが、前月分が17.8万人増から20.4万人増に上方修正。

6年連続で年間を通して200万人を超える雇用が創出され、12月の平均時給は前年同月比で2.9%増加と09年6月以来で最大（ブルームバーグ）という結果に米国株式は買われ、NYダウは、一時19,999.63ドルまで上昇した。ドル指数も上昇。ただダウと異なり、この日の高値は3日の高値を超えていない。

米ドルは昨年12月中旬以降103ポイントの後半に入ると売られる傾向がある。ドル／円相場も107.50を超えると頭が重くなる。その間、ユーロ／ドルは下値を固めている。

当欄では売り方針であったこの相場は、先週3日に1.0341まで下落したが、この時15日スローストキャスティクスは12月の水準よりも高く「強気オシレーターダイバージェンス」が発生。短期買いシグナルが点灯。実際ここから上昇している。

昨年末の当欄ではこう述べている“少なくとも、11月、12月の高値を結んだラインを引け値で突破しない限り売り玉は保持。1.0割りで利食いで様子を見たい。売りの日柄は満ちかけている。底打ちシグナルは引け値で69日移動平均を超えたところ。そのプルバックが買い場となろう”。昨年末、相場はこの11-12月ラインを高値で突破したがダマシで終わった。しかし3日安値出現後の反騰でこのラインと、23日移動平均を引け値で上回っている。先週末の雇用統計を受けて下落した場面は奇しくもプルバックという格好になった。

筆者は、昨年5月と8月の高値に起因する下降チャネルラインをベースにこの相場を見ていた。水星逆行が終了する今週、チャネルライン下限に復帰した相場は存外強いかもしれない。

まだ3日安値が長期相場サイクルボトムであったと断じるには時期尚早だが、少なくとも69日移動平均付近、もしくは昨年3月の安値水準（11月高値からの下げの半値戻し水準に近い）まで戻るのではないかと。従って、これまでの売りを全て利食い、今週から買い方針に転換したい。なおその際の損切り水準は、先週3日の安値1.0341以下の引け値に置く。

今週の主な予定・経済統計

1月9日(月)

- ・【日本】成人の日で休場
- ・ボストン、アトランタ各連銀総裁が講演

1月10日(火)

- ・米3年債入札 (240億ドル)

1月11日(水)

- ・1月の米卸売在庫 (前月比0.9%増の予想、前回は0.9%増)
- ・トランプ次期大統領会見
- ・米10年債入札 (200億ドル)

1月12日(木) … 満月

- ・米30年債入札 (120億ドル：入札合計は560億ドル規模)
- ・米週間新規失業保険申請件数 (前週は23.5万件)
- ・セントルイス、フィラデルフィア各連銀総裁が講演

1月13日(金)

- ・昨年12月の米小売売上高 (前月比0.7%増の予想、前回は0.2%増)
- ・昨年12月の米卸売物価指数 (前月比0.3%増の予想、前回は0.4%増)
- ・同コア指数 (前月比0.1%増の予想、前回は0.4%増)

1月14日(土)

- ・イエレンFRB議長、タウンホールミーティング参加
- ・フィラデルフィア連銀総裁、講演
- ・1月のミシガン大消費者信頼感指数 (98.5の予想、前回は98.2)
- ・昨年11月の米企業在庫 (前月比0.5%増の予想、前回は0.2%減)



今週の相場風林語録

相場は見えてくるもの【1】

相場を追っている時は相場の心がわからない。相場古金言に『待つは仁』というのがある。待つのは、ゆとりである。

今週の**九星★波動**

1月は波乱の相

南雲 紫蘭

年初来の強気相場。ですが、株は順調、為替は失速というところでしょうか。

特に為替は1月4日に発表された12月13～14日開催分の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨によると、FOMCでは「一部の海外経済の脆弱性」や「F F金利が下限に接近している状況」に加え、「ドル相場の一段の上昇の可能性」がダウンサイドリスクとして言及されたのです。

もちろん数人のメンバーは、ドル相場が更に上昇すればインフレ抑制効果の継続が見込まれると述べていますが、特に「ドルは日本円に対し約10%、メキシコペソに対し5%上昇した」と名指して記述があった事が相場参加者の気持ちを揺さぶったのでしょうか。

更にいえば、やはりポジションがかなりドルロングに傾いている、という事もあるでしょう。

相場指南道場

トレーダーあすなろ物語 (377)

中原 駿

上野の直属の上司である牧山との軋轢と、彼に関する下原常務への讒言は、下原をして上野を「組織人失格」と判断させた。喧嘩両成敗どころか「上野の単純で純情な行動がむしろ上野こそが異分子でグループの輪を乱している」とした牧山の謀略に嵌められてしまった形となった。

ただ、7月に出された上野のシンガポールへの異動の辞令は波紋を引き起こした。彼は確かに上司への工作は苦手であったが、部下に公平、上司には無私、そして仕事熱心であった。

顧客からの支持も厚いものがあり、幾つかの顧客は上野の異動を非常に残念がった。牧山の謀略が次第に明らかになるにつれて、若手を中心に牧山への反抗的な姿勢が更に強まった。

第六感の サブサイクルボトムを買う



テクニカルアナリスト 葛城 北斗

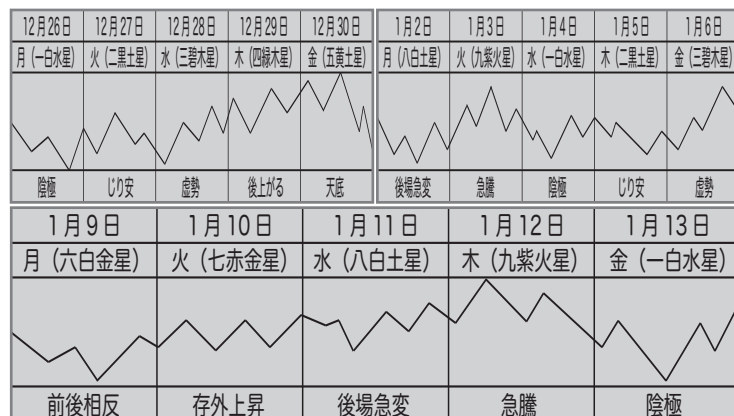
3月末まで天井は付けない

ドル円相場の目先は予定通り、サブサイクルボトムに向けた下げが入っている。昨年末のコメント「ただ7～11週サブサイクルが今週は7週目に入り、ボトムを付ける時間帯に入ってくる。一旦天井を付ければ2～3週の調整が入るのが通常の強気型サイクルのパターン。このパターンであれば、調整は上昇幅の23～38%以内に留まる。11月9日安値101.19が現行サブサイクルの起点になり、ここまでの高値は12月15日に付けた118.56。従って、この高値が更新されるまでは上述の調整レベルは114.60～111.98となる。1月調整が入れば、再び買いなる相場と見ている。サブサイクルベースでは110円を割りこんで引けるまでは買いが有利の相場」。

今週はサブサイクルの9週目。天井は12月15日118.56で付けた。現在はボトム模索中。雇用統計前の執筆になるが、高値が更新されれば新サイクルに入っていると考えられる。その前に何処まで調整するかわだが、上述の目標値レンジの上限から下限まで、三段階に分けて買いたい。しかし下値目標値に届かず今週上伸して117円台に入れば、ストップを115円割れの引け値に設定して買いを狙う。このケースでは新サイクルの上昇期に入っていると考えられるので、最低でも3週間は上昇が続くと予想される。この場合の最低の目標値は120円台。

中期サイクルについては先週次の通りコメント「ドル円相場には中期として1年サイクルが存在している。この起点は6月

九星波動は1月5日から新月盤《九紫火星》に入っています。いわゆる「波乱天井」ですが、月盤は基本逆転していますから、いきなり急落するも1月中旬から乱高下しながらも、最終的には大幅上昇となる相とみます。年初来の急落は買い向かいと出ておりますが、どうか1月下旬の反転に期待したいものです。



そして事件は、牧山が月次で定例的に弁当を頼んで行く開く為替グループとのミーティングの場で起こった。

いつものように牧山は、この会議で若手の意見を聞くふりをして実は全く妥協せず、意見も聞き入れず、時間だけが淡々と過ぎて行く。

いつもなら牧山が「意見があれば言った方がよい」といって、今回も「反論なし」として終わるはずであった。しかし、ここで幾つかの非常に先鋭的な「意見」が出てしまったのである。

「牧山課長は、今後もこんなことを続けていくおつもりなのですか？」

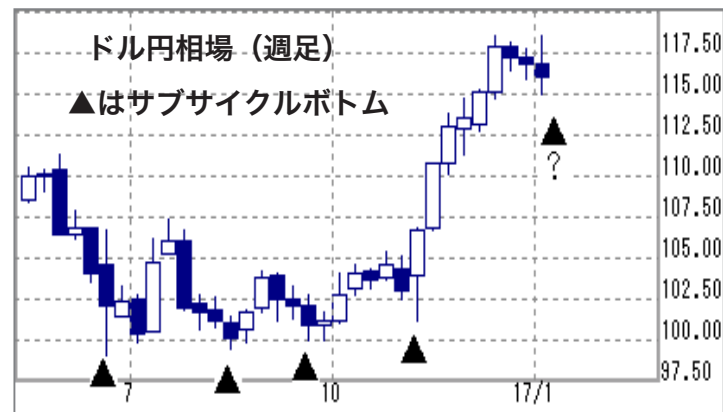
「若手の意見を代表してくれる人間は、無用なのですか？」

「安定的な顧客と、カスタマー・ディーラーとの関係は続いていくべきなのではないですか？」

「そもそも、どんな理由で異動が決まったんですか？」

そう、ここでついに若手の不満が爆発したのだ。

24日の99.04。次のボトムは17年6月24日±2カ月に到来する。この1年サイクルは新5年サイクルの第1位相。従って、中立型（センタートランスレーション）にならない限り、通常は爆発的な上昇を示す超強気型サイクルになる可能性が高い。この場合、天井を付ける時間帯はサイクル期間（1年）の76～84%の時間帯。つまり、今年6月安値から40週を過ぎてから天井が到来すると考えられる。今週はまだ27週目。このサイクル位相が正しければ、ドル円相場は2017年3月末までは天井は到来しないことを意味する。従って、1月以降調整が到来すれば、それは単なるサブサイクルボトムに向けた下げであり、一旦ボトムを付ければ、次の新サブサイクルの上昇期では現行サブサイクルの高値を更新すると予想される。このケースでは少なくとも2015年6月の高値をテストするか上抜くことも想定できる。110円を引け値で割り込むまでは1年サイクルの上昇期が続いていると判断する。



サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

【第22回】ユーロ／ドル相場のサイクルについて（1）

2017年最初の当欄。例えば、昨年のドル指数とNY金のサイクル解説は今回の解説のための布石であったと言えます。

ユーロと言う通貨が決済通貨になり、為替取引が始まったのが1999年1月、紙幣が市井に流通し始めたのが2001～2002年ですから、長期相場サイクル分析するほどの日柄がありません。そこでドル指数とNY金の日柄と比較する必要があります。



メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

星回りから見た目先の日経平均株価

金融版投資日報も今号が年内最初。休み中のアストロロジー的な注目点はやはり12月19日～2017年1月8日の水星逆行と、その間の天体位相であったといえる。逆行中間点付近では日経平均株価が急落して反発（12月30日）。金星サインチェンジがあった1月3日にドル／円相場は高値、ユーロ／ドル相場は安値をつけて反転している。

当欄はまさに水星逆行終了日当日（1月8日）に執筆しているが、今週注目すべきは前回のレポートで記述した【5日】上弦、【7日】太陽・冥王星コンジャンクション、【10日】太陽・天王星スクエア、【12日】太陽・木星スクエア、満月、水星サインチェンジ（射手座→山羊座）【12～13日】金星・海王星コンジャンクションの時間帯。このうち7日、10日、12日は『フォーキャスト2017』で要注目されていた「木星・天王星・冥王星T字

更にドイツマルクをベースにした数値も参考にすると、ユーロは対ドルで16.5年長期サイクルがあると見られています。史上最安値は2000年10月26日の0.823。ここをボトムとして過去の相場を振り返ると1995年2～3月に底値を確認する事が出来、ここまでの日柄が約16年です。

そして今月は00年10月安値から起算して16年と3カ月目。しかも先週3日に安値が更新されています。この安値が長期サイクルボトムであったと断じるには時期尚早ですが、少なくとも2017年は、ユーロ／ドル相場が16年レベルの大底をつける時間帯に入っている、という事は出来るでしょう。

スクエア」の太陽トランスレーションに相当する。

このT字スクエアは11月25日の木星・冥王星スクエアと、12月27日の木星・天王星オポジションの2つの組み合わせによるものだが、日経平均株価に限って言えば、両天体位相発生時から数日の相場は下げている（前者は軒並み陽線であったが）。従って星回りからみると、日経は週初こそ高値を指向する可能性はあるが、総じて週末にかけ安値を指向するのではないかな。

またこの相場に関して、短期トレードはこれ以外に火星の動きに注目するとよいかもしれない。火星は昨年8月3日に射手座、9月27日に山羊座、11月9日に水瓶座、12月19日（水星逆行開始日）に魚座にサインチェンジした。実勢相場は8月4日に安値、9月27日に安値、11月9日に安値、12月21日に高値が出現している。現在魚座に居居している火星が牡羊座にサインチェンジするのは1月28日。まさに水星逆行シャドウ期が終わる時間帯にあたる。星で上下を推測する事は出来ないが、この付近は何らかの節目の時間帯になるのではないかな。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み！！

今週のアストロロジー info

- 1月9日（月） 相場世界、楽観者は大儲けすることもあるが、大損することもある
- 1月10日（火） 1月6日の流れが続く
- 1月11日（水） 市場により二段下げか二段上げが始まる
- 1月12日（木） 株式は良好な状況
- 1月13日（金） 小動きもやや鋭角の上下動多発
- 1月14日（土） 相場世界、過去の間違いが今の正解になったりする
- 1月15日（日） サイクルは現在浮上していない波を予測する

2017年最初の勉強会！ 参加申し込み受付中！

2017年
新春
勉強会

フォーキャストのその先へ

勉強会の新年第一回目は、『フォーキャスト2017』を参照しながら、株式市場、通貨市場、国際商品市場の中から「どの銘柄を、どのタイミングで、どこで、どのように儲けて行くか」という問題を、サイクル・アストロロジー・テクニカル3本柱で分析。読者自身の見解も織り交ぜながら、午前・午後の二部構成で解説します！講演後にはご質問にも出来る限りお答えします！

講師

株式会社投資日報社 代表取締役 鍋木 高明

会場

貸会議室日本橋清新丹

日時

2017年1月28日（土）11:00～15:00

※途中昼食休憩あり（お弁当をご用意しております）

定員

50名

（定員に達し次第受付終了）

参加費

14,040円（税込）

※お振込み手数料等はお客様負担となります。

※ご入金の確認をもって参加登録完了となります。

※登録完了されたお客様には受講票とご案内をお送りします。

■ 詳細・お申し込みは >> <http://www.toushinippou.co.jp/>（セミナー）よりお申し込みください

（株）投資日報社 電話：03-3669-0278 東京都中央区日本橋人形町3-12-11GRANDE人形町6階

星を読む。サイクルを読む。市場を読む。
Feel the star. Feel the cycle. Feel the market.

フォーキャスト2017

アストロロジーとサイクルで
2017年の相場を読み解く究極の書

「サイクル」「アストロロジー（占星学）」「テクニカル」
この3本柱で2017年の動向を予測！

アストロロジーでは2017年の水星および金星逆行の解説に加え、有力政治家の出生図やFRB、NYSE、そして米国の始原図から予測。主要天体位相の発生時間と始原図とを重ね「何故この時期は重要なのか」を解明。「フォーキャスト2016」目玉解説の土星・海王星ウェイクアップスクエアは終了したが、その影響は2017年中もまだ残る。メリマン氏はこの点を「世界無責任時代（ただし、もれなくスケープゴート付き）」という副題をつけて「土星はコントロール、統制を意味する。特に、政府や金融界のリーダー達のように権力の座にある人々が持つ、統制への欲求・衝動を象徴。しかし海王星は境界など知らないし、とりわけ境界線、限界、統制という意識が欠落している。…状況が制御不能となりヒステリー状態になっていくという一連の反応は、何れも中央銀行とインフレーションの問題に限ったことではない」と述べていた。2016年に起きた事象は「制御不能」と「無責任」という言葉は非常に的確だ。

恐らくこのスクエアの解説も行いつつ、次の一手が予測されるのではないだろうか。

幾つかの主要相場では長期相場サイクルの節目に入っており、アストロロジーとサイクル、どちらでも必読の内容となるだろう。

レイモンド・メリマン 著 秋山日輝香・投資日報編集部 訳
投資日報出版発行 8100円（税込・送料別）

メリマンCDと併せて、ただいま絶賛発売中！

簡単・便利な「投資日報オンラインショッピング」もご利用ください。

お問い合わせ先：投資日報出版（株） <http://www.toushinippou.co.jp/>

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 3-12-11GRANDE 人形町 6F 電話：03-3669-0278 FAX：03-3668-4444